

特別講演

講演テーマ：「情報学の展望」

国立情報学研究所 所長
坂内 正夫（さかうち まさお）

<講演概要>

いわゆる 100 年に一度の経済危機に対応して、いずれの分野でも 10～20 年先を見通した展望論が盛んである。本講演でも、「情報学分野の展望論」を行いたい。但し、この展望は、学術分野の視点、特に、筆者が委員長を務める日本学術会議情報学委員会展望分科会での約 100 人へのアンケートに基づく議論や、本年 3 月に開催の「情報学の展望」シンポジウムでの議論を中心に紹介する形としたい。

主な論点例は、以下のようなものを取り上げたい。

1. 情報学の重心が、第 1 世代のコンピュータシステム、第 2 世代のサイバースystemから、第 3 世代の実世界との融合に移動。この観点からの、CPS（サイバーフィジカルシステム）や、情報爆発への対応が課題。
2. 超巨大、ダイナミック、オープンなシステムの解析・制御への対応
3. 研究・教育、ビジネス等の基盤としての情報学のパラダイムシフト、その観点からのデータセントリック価値創成
4. 環境、エネルギー、新型疾患等の課題解決情報学の展開
5. 新たな社会基盤を支え、文化、生活に影響する情報学
6. その他



<略歴>

坂内 正夫（さかうち まさお）<国立情報学研究所所長>

工学博士。専門：情報処理。

75 年東京大学大学院工学系研究科修了。東大工学部電気工学科講師、東大生産技術研究所助教授を経て 86 年同教授。98 年東大生産技術研究所所長を経て、02 年より国立情報学研究所副所長、05 年より同所長。02 年より東大生産技術研究所教授併任。現在、日本学術会議会員、総務省情報通信審議会会長代理、同情報通信技術分科会会長、ITS Japan 副会長等。